

F2-7

武蔵野緑町パークタウンの土地利用の変遷に関する研究

Study on the transition of land use in Musashino Midoricho Park Town

○高宗明日香¹, 小木曾裕²*Asuka Takamune¹, Yutaka Kogiso²

Abstract: In the past, airplane factories and baseball stadiums have been built at Musashino Midoricho Park Town. From the transition of land use, we grasped that the buildings of each era inherited a part of the building that was built before, and that the planning concept of each era has a great influence on the modern green town.

1. 背景と目的

第二次世界大戦前の武蔵野市は、「武蔵野町」と呼ばれ、畑が広がる中に林が点在している場所だった。戦後の1947年に市制を施行し「武蔵野市」となる。その後、1962年に町名地番整理が行われ、緑町が誕生した。その中でも研究対象地にあたる場所は、現在は集合住宅があるが、以前は飛行機製作所や野球場など様々な施設が同じ場所に建てられてきた。そこで、昔から様々な建物が建てられてきた研究対象地の土地利用の変遷を調査し、まちづくりの歴史を把握し研究対象地のまちづくりの進め方を考察することを目的とする。また、緑町の研究対象地にあった歴代の建物が、現在の緑町にどのような影響を与えているかを考察することを目的とする。

2. 調査方法

調査対象地は武蔵野緑町パークタウン(以下「パークタウン」)を中心とした緑町二丁目の範囲とし、土地の歴史を文献にて調査した。

3. 結果と考察

(1)~昭和初期

現在の緑町二丁目は、明治初期までは街道沿いに集落がある他は見渡す限りの畑、その中に林が点在している自然豊かな場所だった。その後、千川、五日市街道を結ぶ規則的な道路が出現した。

(2)中島飛行機武蔵製作所

1943年に中島飛行機武蔵野製作所(以下「東工場」)が作られた。その後、1943年に隣接していた中島飛行機多摩製作所(以下「西工場」)と合併し、中島飛行機武蔵製作所が誕生した。この飛行機製作所が研究対象地に建てられたのは、東京の中心に位置し、広大な土地が広がっていたことが理由と考える。この製作所は軍用航空機エ

ンジンの生産において日本の全生産量の3割を占めており、重要な工場として世界各国から狙われてた。そのため1944年から始まった東京空襲では最初の目標となり、約1年間狙われ続けた。そして、第二次世界大戦終結の年の1945年に中島飛行機武蔵製作所は稼働終了した。

(3)東京グリーンパーク球場

中島飛行機武蔵製作所の中でも研究対象地に当たる部分(旧東工場)は、元々陸上競技場やプール、サッカー場があり、旧西工場跡地と比べると、比較的空襲の被害は小さかった。そのため、これらを活用したスポーツ施設の開発が計画されていた。また、当時プロ野球の公式戦で使うことのできる野球場が不足していた。この2点から、研究対象地に野球場が建設されることになり、東京グリーンパーク球場が誕生したことを捉えた。東京グリーンパーク球場は1951年に東京国鉄スワローズの本拠地としてオープンした。当時、国鉄は神宮球場がGHQに接収され、日本人が使用することが禁じられ、本拠地となる球場を探していた。そこで東京グリーンパーク球場建設の計画が進められていることを知り、計画を進めていた武蔵野文化都市建設(株)[1950年に(株)東京グリーンパークに改称]に打診し、「三鷹駅から武蔵野グリーンパーク球場への路線建設」を条件で交渉は成立したことを捉えた。1951年に三鷹駅~武蔵野競技場前駅に「武蔵野競技場線」3.2Kmを開業させた。これは旧中島飛行機武蔵製作所の引込線跡を利用して作られた。しかし、東京グリーンパーク球場は近隣住民の苦情等により翌年には一試合も行われなくなった。

(4)武蔵野緑町団地

その後、1956年に当時の武蔵野市長の仲介で日本住宅公団(以下「公団」)が買収し、1957年に武蔵野緑町団地

が完成した。武蔵野緑町団地は、建設時に「植樹・造園に特に意を凝らし、武蔵野の面影を残す付近の風景と柔らかく融けあっている。自然と近代の建物の織り成す綾は、新しい武蔵野の風物詩となるだろう」というスローガンを公団が掲げ、広大な自然が広がる昔の武蔵野の風景を残しながらも現代の風景と調和するように設計されたことを捉えた。当時としては珍しい、丸い、ユニークな形状をした集会所や、公団住宅初となる1DKの住戸が導入された。また、円を描く道路と、それに囲まれるように建物が建てられている配置も特徴であり、これは、野球場時代の球場に沿って作られた外周道路をそのまま残したためそのような特徴的な形となっていることを捉えた。その後建物の老朽化が進む等して、建設後35年が経過した1991年から建替が始まった。

(5) 建替～武蔵野緑町パークタウン

建替は、住民の意見も多く取り入れたり、武蔵野団地の頃からある既存樹木の活用も積極的に行い居住者の思いを引き継げるよう意識して作られた。そして、2003年に現在のパークタウンが完成した。パークタウンは、緑溢れる開放感のある空間づくりを意識して作られたり、集会所や中央広場などコミュニティが作れる場所が多い点もポイントである。現在、パークタウンの周りは、並木道や大きな公園がある。それらを結ぶパークタウンは緑のまちをつくるのに重要な存在であると思われる。

4. まとめ

今回の調査から以下2点が緑町の研究対象地のまちづくりの特徴であることが捉えられた。

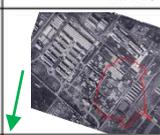
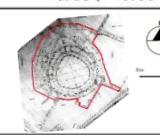
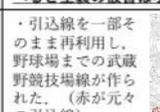
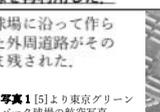
①緑町の研究対象地に建てられてきた建物は、引込線や外周道路、既存樹木など、そのひとつ前に建っていた建物の一部を再利用したり、ひとつ前の建物の計画コンセプトを一部継承している。このように過去の建物の面影を残しつつ、新しい建物を作り上げるという方法で計画を進めていたことを捉えた。

②東京グリーンパーク球場建設時に掲げられたスポーツのまちにする計画は、現在の研究対象地の周りにスポーツ施設が多数あることに関係していると考えられる。また、緑町団地建設時に掲げられたスローガンがあったからこそ、緑町パークタウンを中心に自然豊かな風景が広がり、現在緑町が武蔵野市の中で特に緑の濃い地域と呼ばれていると考える。このように、各時代の建物の計画やコンセプトは、建物自体が無くなっても継承され、現在のまちづくりに大きな影響を与えていることを捉えた。

5. 参考文献

[1] 牛田守彦(2011), 戦時下の武蔵野 I～中島飛行機武蔵製作所への空襲を探る～, ぶんしん出版 [2] 相馬登(2004), 目で見ると三鷹・武蔵野の100年, 郷土出版, p.75-76 [3] BLOG DE 吉祥寺 <http://www.kichijoji-city.com/2013/12/blog-post_15.html>, (閲覧日:2021. 6. 2) [4] 野球場誌 <http://geo.d51498.com/Playtown-Darts/7539/yakyujosi/kanto/greenpark.htm>, (閲覧日:2021. 6. 2) [5] 多摩めぐりブログ <https://tama-meguri.com/blog/2020/10/29/5/5159/>, (閲覧日:2021. 9. 8) [6] 武蔵野緑町パークタウン自治会・都市基盤整備公団 東京支社・武蔵野市(2003), 武蔵野緑町団地 建替記録誌, 372pp [7] 小木曾裕(2005), 建替団地における既存樹木利活用に対する居住者意識, ランドスケープ研究 68巻5号 p.769-772 [8] 内田宗治, 零戦エンジンとスワローズファンを運んだ引込線 壮絶な過去と廃線のワケ, 乗り物ニュース <https://trafficnews.jp/photo/101656>, (閲覧日:2021. 9. 10) [9] 日本住宅公団東京支所建築部(1956), 武蔵野団地第1住宅工事設計書 TH41-125 2/2

Table1 Comparison of buildings of each era(各時代の建物の比較)

名称	中島飛行機武蔵製作所	東京グリーンパーク球場	武蔵野緑町団地	武蔵野緑町パークタウン
年代	1943年～1945年	1951年～1956年(1952年)	1957年～1991年	2003年～2021年(現在)
配置図	 ※矢印は引込線 ※赤線は現在の武蔵野緑町パークタウン(航空写真出典:[1])	 ※矢印は引込線 (図面出典:[8])	 (図面出典:[6])	 (図面出典:[7])
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・中島飛行機武蔵製作所(東工場)と、中島飛行機多摩製作所(西工場)が合併してできた。 ・研究対象地に当たるのは、武蔵野製作所(東工場)の範囲。 ・軍用航空エンジンの生産において日本の全生産量の3割を占めており、世界各国から常に狙われていた。 ・東京大空襲では一番最初の攻撃目標となり、約1年間狙われ続けた。 →1944年11月24日米軍のB29爆撃機による爆撃が始まった。 ・なぜ第一回目が中島飛行機武蔵製作所だったのか。 →中島飛行機武蔵製作所は東京にあったことが原因の一つである。 三菱重工名古屋発動機製鉄所も中島飛行機武蔵製作所と同じくらい重要な拠点だった。「首都東京を爆撃することに成功した」となればそれはアメリカにとって大いに頌賛を高揚するものであり、その威信を高めるものとなる。 よって目標は東京でなければならなかった。 ・この空襲では、陸上競技場やプール、サッカー場があった東工場は、西工場と比べると空襲の被害は小さかった[4] 	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵野文化都市建設(株)(1950年に(株)東京グリーンパークに改称)により計画が進められ、建設された。 ・使用球団は国鉄スワローズ(現東京ヤクルトスワローズ)である。東京六大学野球リーグでも使用された。 ・最大収容人数は5万人で、東日本一の大球場と呼ばれた。 ・元々、東京グリーンパーク球場のアクセスルートは京王帝都電鉄と、西武鉄道が線路敷設権を争っていた。 →そんな時、財団法人交通協力会理事長が武蔵野グリーンパーク球場建設計画を知り、その計画推進者との面談で、新球場を国鉄スワローズの本拠地にしたいと打診した。 計画推進者は都心部と直結できる中央線の支線があれば、東場ハードルを下げる事ができると考え、当時の国鉄総裁に対して「三鷹駅から武蔵野グリーンパーク球場への線路建設をしてほしい」と働きかけ、国鉄は2社が争う間隙を突いて着工。 1951年4月14日に三鷹駅～武蔵野競技場前駅に「武蔵野競技場線」3.2kmを開業させた。これは工場時代に使われていた武蔵野駅からの引き込み線を再利用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使われなくなった東京グリーンパーク球場を、当時の武蔵野市長の仲介で日本住宅公団が買収し[5]、その翌年には住宅建設に着手した。 ・建設時のスローガンは、「植樹・造園に特に意を凝らし、武蔵野の面影を残す付近の風景と柔らかく融けあっている。自然と近代の建物の織り成す綾は、新しい武蔵野の風物詩となるだろう」である[6]。 →団地のいたるところが遊び場となり、豊かな緑の中でコミュニティが育まれていた。 →建設時に植えられた植樹は、最初は幹が人の腕くらいの太さで、団地内から空や住棟が良く見える風景が広がっていたが、建替時には5階の住棟が埋もれるくらいにまで成長した。 ・1019戸の大団地で、箱型やポイントハウス等バラエティに富んでいた。 →当時としては珍しい、丸い、ユニークな形状をした集会所があり、公団住宅初の1DKの住戸が導入されていたこともあり、皇太子ご夫妻が訪問したこともあった。 ・建設時に植えた樹木は、35年の時を経て大きく育ち、5階建の住棟が埋もれるほど成長した。 	<ul style="list-style-type: none"> 【建替】 ・武蔵野市は、緑町団地の建替を、まちづくり推進の絶好の機会ととらえ、市の長期計画の中で9つの優先事業の一つに位置づけた。 →しかし建替に反対する住民がとても多かった。そこで、住民の要望を尊重し、コミュニティと環境を保全する立場で公園と調整を図りつつ進める形を基本構想とした。 ・グリーンバンクシステムを活用し、既存樹木を再利用した。 ・計画コンセプトは①豊かな緑空間の継承、②コミュニティの継承、③人と自然に優しい屋外空間の創造とした。 【武蔵野緑町パークタウン】 ・2003年に建替が完了し、武蔵野緑町パークタウンが誕生した。 ・住棟は、三角の勾配屋根、出窓や階段の丸み特徴的である。また、住棟の色はゾーンごとに落ち着いたブラウン系と、爽やかなブルー系に分かれている。 ・集会所や中央広場などコミュニティが作れる場所が多く、高齢者や子育て世代に人気の団地となっている。住民以外の人々も団地内に入れるため、団地外の人ともコミュニティを創出できる点もポイントである。
継承されたもの	<ul style="list-style-type: none"> ・引込線の一部そのまま再利用し、野球場までの武蔵野競技場線が作られた。(赤が元々の引込線) 	<ul style="list-style-type: none"> ・球場に沿って作られた外周道路がそのまま残された。 <p>写真1 [5]より東京グリーンパーク球場の航空写真</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・建設時のスローガンが、建替の「豊かな緑空間の継承」「人と自然に優しい屋外空間の創造」という計画コンセプトとして引き継がれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンバンクシステムを活用し、建設時から植えられている既存樹木を再利用した。 <p>写真2 http://www.glnc.jp/spaces/01.htm</p> 